



同窓会会報

2005.8.20

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/



▲広々とした第二体育館

2つの体育館
私がこの獨協埼玉高等学校を卒業してから、早いもので10年が経ち、そして、この学校に勤務するようになって、5年目になりました。私がこの学校を卒業するときには、想像もできなかったくらい獨協埼玉は変化をとげています。中学校ができた、制服が変わったり、今年は第二体育館までできてしまいました。その影響もあり、バスケットコートやバレーコートが外にできたり、なくなったり、テニスコートは場所が移動し、一面増えていたり…。このように、びっくりするくらい獨協埼玉は変化しているのです。今回は、第二体育館ができたということ、第二体育館での思い出を振り返ってみたいと思います。(ちなみに、

昭和55年に開校した、我が獨協埼玉高等学校も早いもので25周年を迎えました。平成13年には中学校も併設され、全校生徒は1500名を超える程になりました。それに伴い、一つの体育館では満足な授業や、部活動もできなくなりつつありました。そのような中で、待ちに待った第二体育館の一部を除き、6月から使用できるようにになりました。第二体育館に入り、最初に目に飛び込んでくるのは開放感あふれるメインアリーナ。バスケットコート2面、バレーコート4面がとれる贅沢なほど

の広さがあります。そして、高い天井はドーム型の膜屋根で、日中であれば照明を使用しなくても活動が可能です。メインアリーナ以外にも講義室、後援会・PTA・同窓会室、新部室などがあり、もちろんトイレやシャワールームの設備も充実しています。また、建設中ではありますが、高校棟の二階部分と第二体育館をつなぐブリッジも、近日、完成する予定です。この第二体育館ができたおかげで、生徒たちは伸び伸びと体育の授業や部活動に打ち込めるようになりました。同窓生の皆さんも是非、第二体育館をご覧になってみてはいかがでしょうか。お待ちしています。

待ちに待った第二体育館が完成しました！



▲外階段から部室に入ることができます

新しくできた第二体育館は、床は身体への負担を軽減したスポーツに適したフローリング、天井はなんと、東京ドームを思わせる白い膜屋根。もちろん高さは、バレーボールで公式戦もできる高さです。本当に素晴らしいものができたというのが実感です。校内合宿などを行うときにも、もうシャワーのながしい時間、順番待ちをするのもありません。ぜひ、同窓生もOB・OGとして来校してみたいと思いませんか。今もまったく変わらない先生方と獨協埼玉ののんびりとした雰囲気をお待ちしています。

(13期生 櫻井広仁)

同窓会長 玉山栄一



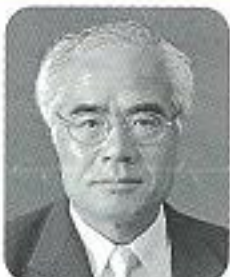
週日25周年事業が第二体育館の竣工を持って、一区切りしました。母校のこの節目に会長という立場で立ちあえたことに今

さらながら巡り合わせというものに感謝をしています。この記念誌にも書かせてもらったのですが、我々一期生は昨年、多くの人の手を借りながら「ホームカミングデー」を開催させることに成功しました。どれもこれも人と人がつながっていくことの大切さを教えてくれるトピックスです。

情報化社会の浸透により、インターネットで地球の裏側の情報までも瞬時に得られる時代になりました。ところがこのパソコンやインターネットで得られる情報というのは、いわば人生における一次方程式の解き方を教えてくれるに過ぎません。人生はこの一次方程式で乗り切れるほど単純なものではなく、むしろその先にある二次方程式こそが人生そのものだと言えます。しかもこの二次方程式の解答は、誰かに与えられるものではなく、人にもまれて、経験を重ねることによって初めて解けるようになるのです。近頃はメールなどではいろいろと話せるのに、実際に向き合うことが苦手だという人が増えてきていると言います。やはり人と会ってこそ伝わるものがあり、人と会うのが醍醐味になってこそ、その人も本物だと言えます。

人の縁を大切にしたいものです。人は一人では生きていけないのですから。最近、目を覆いたくなるような事件はそういうことを忘れてしまったかのようです。大人が変わらなければなりません。大人が変わらなければなりません。大人が変われば、社会全体を変える可能性もあるのです。今こそ人と人とのつながりを大切にしたい人間関係こそが望まれます。その最初の一步として、同窓会は近い将来、まずは地域との関係を築いていくことを計画中です。

校長 石井征次



昨秋、学校祭に合わせて一期生のホームカミングデーが実施された。2次会の参加者まで加えると70名余

も集まったのだろうか。まことに楽しい会であったのだが、こんなに集まったのは、一期生ならばこそその声もあった。

今年もまた学校祭に合わせて、今度は二期生のホームカミングデーが実施される。二期生は、一期生と男女共学最初の三期生との間に挟まれて、何となく影が薄いと噂もある。果たして、どれほどの卒業生が集まってくれるのか危ぶむ声もあった。

ところが、先日の同窓会総会に参加した2名の二期生が「よし、何とか一期生に負けないくらいの人を集めて、ホームカミングデーを成功させるぞ」と、いささかのアルコールの後押しもあったのだから、声高く宣言してしまっただけの両名の面目をつぶすわけにはいかない。

そんなわけで、これから二期生の諸君のところへは、なんらかの形でホームカミングデーの案内が届くことになるだろうが、是非とも万難を排してご参加願いたい。当時、学年主任だったカッキーパンチの加倉井教諭を始めとして、あの頃の担任教員の多くが現役で、諸君との久々の出会いを楽しみにしている。

獨協埼玉は、新しい中学や体育館が出来て、君たちが卒業した頃とは少し変わったかもしれない。でも、20年以上の歳月を経て、なお変わらないものも多い。君たち自分の青春の確認のためにも、秋には足を運んで欲しいと思う。

同窓生の皆さん、お元気ですか？日頃、母校の為に何かとお骨折りました。ありがとうございます。皆さんの社会での活躍ぶりを拝察し、親心のように嬉しく思っております。

本校も25周年という節目の年を迎え、多様な教育環境の中でも頑張っております。特に、少子化現象で生徒募集に苦慮する折、卒業生のご子息や知人の方等が受験してくださることは、とても嬉しく、励みとなります。

保健室のおばさんの近況は、四半世紀も経ると、お姉さん(自称?)からお母さん、おばさんからおばあさんへと変身し、いまや相当重症な婆馬鹿(孫2人)ぶりを発揮している今日このごろです。

同窓生の皆さん、たまには立ち寄って順調な老化現象と戦っている元若い戦士達に若くて元気なエネルギーを充電させてください。

根岸 隆先生(英語科)

卒業生の皆さん、こんにちは。お元気ですか。私が獨協埼玉にまいってからは、はや四半世紀が過ぎようとしています。相変わらず肥満体型で昨年などは病気のため4月から5月にかけて獨協大に6週間ほど入院しましたが、おかげで完治し今は元気に通勤しています。

今年3回目の学年主任を命ぜられ、これが最後の学年主任かと日々頑張っています。もともと体力、気力は以前に比べるとぐんぐん落ちて、これまでの経験でなんとか毎日こなしているという現状です。

時間があれば、ぜひ蛙鳴祭や同窓会に来て下さい。昔のことを語り合いながら、同時に今の君たちの様子も知りたいと思っています。

同窓生のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか。保健体育科の中田です。

時代が変わっていく中で、獨協埼玉高校もずいぶんと変化を遂げているようです。

今年度は新体育館も完成しました。そのすばらしさに驚かれ、またあまりの変貌に一抹の寂しさを覚える同窓生の方々もいるのではないのでしょうか。

しかし、獨協埼玉高等学校の絆や伝統は脈々と流れ、在校生へと受け継がれていると思います。またそう願いたい。

体育祭や文化祭を見るにつけ、獨協生のパワーは未だ健在です。私もまだまだ若いつもりではいますが、そんな生徒たちの姿を見てエネルギーをもらっています。

過去、現在、未来、ここ獨協埼玉高等学校が、みなさんの大切な思い出の場所であり続けますよう願っています。

Bring Back the Good Old Days John G. Lowery

Hi all,
Greeting from the resident "Henna Gaijin".

In days gone by when Dokkyo High was young, a notorious EFL teacher appeared out of the rice fields one day armed with only "chalk and talk" and a cassette player, used as backup, for a ninety minute lesson. Nowadays, I possess a full armoury of gimmicks, including videos, Karaoke, games, and projects to hold the attention of the students just for a fifty minute class. I'm afraid that the concentration span of the students today can be measured by the shortness of high school girls' skirts, and the level of motivation by the low position of high school boys' trousers. Therefore, we should all "pull our pants up" and bring back the old values of learning that Japanese students used to possess, but not the old methods. We as teachers must also remember that the purpose of education is not just to fill the minds of students with facts, but teach students to think for themselves, though an environment where both students and teachers continually learn.

May the Force be with you always.

第八回同窓会総会・懇親会開催

6月18日(土)に、中学棟の小ホールにて、第8回同窓会総会が行なわれました。玉山会長の挨拶から始まり、1期生幹事の杉崎さんを議長に選出して議事が進行されました。まず、平成16年度の事業報告及び会計報告がなされ、次に平成17年度の事業計画並びに予算案が上程されました。それぞれの議案について、満場一致でご承認いただきました。次に、昨年の9月の文化祭に併せて行なわれた、1期生のホームカミングデーの報告をいたしました。1期生幹事の努力の甲斐が有り、1000名弱の同窓生が集まり、成功を収めました。これを2期生以降も継続して行い、同窓会の基幹事業とする提案をし、ご承認をいただきました。ただし、金銭的な協力ではなく、学校との折衝や、住所等の情報提供をするものとします。最後に、前回の総会にてご協力の依頼をいたしました、25周年記念事業の一環である第2体育館の建設資金として、500万円の寄付をしたことを報告させて頂きました。

総会終了後、第2体育館の見学を行いました。最新式の設備を有し、天井もドーム式で非常に明るく、のびのびと運動が出来る体育館を見学し、皆、驚くと同時に、在学中にこんな体育館があったらな...という羨ましい気持ちがあつたひと時でもありました。

そして、引き続き開催された懇親会には、卒業生を囲む会に参加されていた学生や教育実習生も加わり、1期生

▼手に汗にぎる!?ビンゴ大会



から今年卒業したばかりの23期生まで、例年よりも多くの参加者により、終始和やかな雰囲気の中で行なわれました。石井校長をはじめ、20数名の

先生方にも出席をいただきました。玉山会長、石井校長の挨拶の後、河端教頭の音頭で乾杯の運びとなりました。久しぶりに会う先生方との欲談に盛り上がり、あつという間に時間も過ぎて行きました。今年のお楽しみは、ビンゴ大会を企画いたしました。商品券やカードなど、また毎年恒例の獨協ワインを始めとする獨協グッズや、同窓生の協賛による豪華化粧セットや防災グッズなど、沢山の賞品を目の前にして、熱く盛り上がりました。ビンゴ終了後もゲームの余韻が残り、幹事の友野さんからJリーグパスネット、玉山会長からチューブのコンサートペアチケット、永島副会長からデイズニースーツペアチケットを急遽提供いただき、今度は、ジャンケン大会へと移り、終始盛り上がりつつあった懇親会で、2時間という時間があつたという間にお開きとなりました。

このように、第8回同窓会総会、懇親会ともに、滞りなく終了いたしましたことをご報告いたします。来年度の総会・懇

親会のご案内は日時が決まり次第お送りさせていただきますので、多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

■決算・予算報告

平成16年度決算書

収入の部		支出の部	
★22期生終身会費 (322人)	3,220,000	★会報費 (会報・総会ハガキ発送)	1,215,598
★H15年度より繰越金	15,007,225	★通信費 (後納郵便等)	0
★既卒者終身会費	450,000	★事務費 (体育祭飲み物代含む)	175,005
★利息	75	★総会費	443,004
		★慶弔費	0
		★文化祭活動費	50,208
		★幹事会費	40,000
		★企画費	0
		★次年度繰越金	16,753,495
合計	18,677,300	合計	18,677,300

平成17年度予算(案)

収入の部		支出の部	
★23期生終身会費 (342名)	3,420,000	★会報費	1,800,000
★H16年度より繰越金	16,753,485	★通信費	150,000
★預金利息	75	★事務費	300,000
		★総会費	400,000
		★慶弔費	100,000
		★文化祭活動費	50,000
		★幹事会費	100,000
		★企画費	500,000
		★25周年記念事業寄付	5,000,000
		★予備費	11,773,580
合計	20,173,580	合計	20,173,580

懇親会会計報告

収入の部		支出の部	
★懇親会会費	42,000	★懇親会費	164,034
	0	★雑費	0
合計	42,000	合計	164,034

●教育実習を終えて●



今年も6月1日より卒業生24名が、教育実習で母校獨協埼玉にお世話になりました。懐かしさと同時に、中学生がいるということに少し戸惑いを感じました。私の卒業と同時に中学が設立され、どのように変わってしまうのかと思っていました。しかし、実際に生徒と接してみると、穏やかで明るい生徒が多く、私たちのころの獨協生と変わりはありませんでした。私は高1の内進クラスのHR担当となり、3週間過ぎましたが、とても温かく迎え入れてもらいました。先生方にも親身になってご指導いただき、深く感謝しております。卒業生にも優しい学校であるということを実感しました。私たちが親しんだ制服もあと半年で見ることができなくなってしまうですが、獨協に通う人の思いは同じだと思います。これからも獨協の良き伝統を守り続けて欲しいと切に願っております。

19期生 村上恵理

獨協埼玉高等学校 創立25周年記念式典

2005(平成17)年4月、獨協埼玉高等学校は創立25周年という一つの節目を迎えました。この25周年を記念する事業として、第二体育館の建設、25周年記念誌「25年の歩み」の編纂が進められてきました。そして、去る5月21日(土)、本校にて、第二体育館の竣工式および25周年記念式典・祝賀会が執り行われました。第二体育館竣工式は中学棟小ホールにて厳かに、獨協埼玉高校創立25周年記念式典・祝賀会は食堂にて盛大に行われました。

当日は、水上忠獨協学園理事長をはじめ、獨協大学長・獨協医科大学長・獨協中高長はもちろんのこと、越谷市教育委員長、私中高協会長などにもご列席いただき、温かいお言葉を賜りました。また、第二体育館建設を担当された松永建設関係者、後援会理事・PTA役員・同窓会幹事など多くの学校関係者、中島文夫第2代校長、四宮満第3代校長など旧教職員、教職員が出席し、総勢200名余が、獨協埼玉高校がこの越谷の地に誕生して25周年という節目をお祝いする一日となりました。

石井征次校長先生をはじめ、特に、獨協埼玉高校のスタートから関わってきた先生方には、苦労話や懐かしい思い出話が次々と思ひ出され、25年という月日を楽しみじみと思ひ起こした一日に、また、若い教職員にとっては、獨協埼玉高校の歴史を感じ、また新たなスタートをきる決意をした一日になったことでしょう。このように、多くの方々に支えられ25周

年を迎えた獨協埼玉高校は、4年前にスタートした中学校とともに、さらに大きく成長するとともに、私たち同窓生にとっては、いつまでも変わらない母校としてあり続けてくれることと思います。獨協埼玉高校の益々の発展を祈念して、同窓会としても最大限のバックアップをしていきたいと思ひます。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願ひします。

25周年記念誌「25年の歩み」は、募金にご協力いただいた同窓生のお手元に届く予定となっております。同窓会としても500万円のバックアップをしましたが、同窓生各位にも趣旨ご理解の上、ご協力をいただきたくお願ひ申し上げます。

- 募金募集期間…2006年5月31日まで
- 募金金額…101万円
- お問い合わせ…獨協埼玉中学高等学校 事務室 募金係



▲玉山会長挨拶(懇親会にて)

あの先生は今……伊藤 正先生

今回は、伊藤正先生(在職・平成元年4月～平成5年3月)に懐かしいお話を伺いました。

成瀬…先生の近況をお聞かせ下さい。

伊藤…現在は鹿児島大学教育学部で歴史学、特に西洋史を教えています。50歳からはゴルフを始め、日々練習に励んでいます。また、学内の教職員からなる男性合唱団に参加し、週一回練習をして新入生歓迎会などで日頃の練習の成果を披露しています。

成瀬…先生のパートは?

伊藤…僕はトップテノールです。

成瀬…そうだと思います(笑)。次に先生の在職時の校風、生徒の気質についてお聞かせ下さい。

伊藤…僕は1984年にまず非常勤講師、そして1989年に念願叶って専任教諭として採用されて、即1-9のクラス担任を仰せつかりました。それから3年間担任を受け持ちました。1984年当時は第1回卒業生を出した直後だったせいか学校自体がとても若々しくフレッシュな感じがしました。校訓の一つに「信愛」という言葉が掲げられていますが、当時教師と生徒とは「信愛」という絆で結ばれていたような気がしません。「信愛を感じていない人からは何の教育も得られない」とクセノボンがその著書「ソクラテスの思い出」の中で述べていますので、教育に「信愛」がいかに大切かを知ることが出来ますし、当時、獨協埼玉ではそれが実践されていたわけです。3年間担任をやりましたが、明るく素直な心のやさしい生徒が多かったように思います。

成瀬…伊藤先生らしい引用ですね。授業を思い出しました。次に、何か思い出深いエピソードなどを聞かせてください。

伊藤…教室に鳩が飛び込んできて大騒ぎになった時に、僕がその鳩とお話して部屋から出ていってもらったこともありました(笑)。蛙鳴祭でDマークとクラス全員の名前が入ったTシャツを作ったことがありましたが、僕は記念にまだ持っています。なぜ前にボールを投げないのだろうと常に疑問に思いつつ続けたラグビー部の思い出もいっぱいあります。とっておきの思い出は、やはり修学旅行の一件でしょう。

成瀬…先生が体調を崩されて、途中帰京なされたことは鮮明に覚えています。倉敷で真っ青な顔をなされた伊藤先生が私たちのバスを見送る姿が非常に印象に残っております。

伊藤…実は、修学旅行の数日前にせんげん台駅の改札で貧血で倒れたのです。原因不明だったので疲労だろうと思ひ、旅行当日、団長の紀内先生にだけは事情を話し、多少無理をして旅行に参加させて頂きました。結末は成瀬君がご存知の通りです。当時僕は無理をしてもクラスの皆と一緒に来たかったのです。

成瀬…生徒思いの先生らしいエピソードですね。今日は本当にありがとうございました。

伊藤…ありがとうございます。

(インタビュー…成瀬博文(10期生))



▲伊藤先生(在職時)

遡上の日

(第一回ホームカミングデーを振り返って)

今から22年前、昭和58年春、一斉に海へと放たれた稚魚が母なる川へと遡上した日…。

平成16年9月18日、第一回ホームカミングデーは忘れ得ぬ一日となった。22年の歳月は稚魚を成魚に変え、母なる川はやさしい流れで我々を迎えてくれた。

準備期間わずかに二ヶ月。予算ゼロ。実行委員わずか十数名。実行委員長を受けたのは良いが、不安で一杯だった。実行委員や先生方に最大限の協力を頂き、当日蓋を開けると、そんな不安をよそに参加人数80名弱！当時お世話になった先生方も多数ご参加頂き、大盛会となりました。

まるで22年前のホームルームの続きをしているような和やかな雰囲気。皆の笑顔には少々の苦勞を忘れさせて頂き、充実感、達成感、そして、獨玉の卒業生で良かった！1期生で良かった！と心から思った瞬間でした。ここで改めてご協力頂いた諸兄に厚く御礼申し上げます。

当日には1期生の会の設立総会を開催し、1期会を立ち上げられた事は何よりの喜びです。これにより継続的に1期生同士の親睦を図れることになりました。また、1期生のメーリングリスト(以下ML)の参加者は現在110名を少々越えております。現在このMLを活発に利用して、意見交換をしたり、飲み会を開いたりしています。今後このMLと言う宝物を有効活用して参りたいと思います。

ちなみに1期会の会長の任期は4年、



▲一期会を越谷サンシティホールにて開催



1期生から2期生へ…代々受け継がれる記念旗

オリンピックキヤーに総会を開き、会長交代をする(再任は妨げる)と決定しましたので、北京オリンピックには新会長さんが誕生していることでしょうか。会長さんがあと4人変わると1期生も還暦です。とりあえずその日は全員赤いちゃんちゃんこを着て登校したいと思います。

ホームカミングデー、このすばらしい事業が代々引き継がれて行き益々盛大に行われます事は我々1期生にとっても何よりの喜びです。次回2期生のホームカミングデーの成功を願ってやみません。

最後に、獨協埼玉と言う母なる川に感謝し、今後益々川幅が広がることを期待し、その川を形成する先生方現役生徒諸君のご活躍と遡上を待つ卒業生各位のご健勝を心からお祈りしております。今後とも1期生をよろしくお願ひ致します。我々、長生きさせていただきまします。

獨協埼玉高校1期会会長 杉崎 良樹

2期生のための

第二回 ホームカミングデー

実行委員会 直撃

昨年に引き続き今年2回目の開催となる「ホームカミングデー」について編集部若手ナビゲーターが実行委員長の小泉英二さんにその内容について聞いてみました

ナビ 「ホームカミングデー」ってなんなんですか？

委員 「40歳になったら高校へ行こう！」をテーマにした卒業生が集まるイベントです。今年は、その歳に当たる2期生を対象に行われるんだ。昨年もあったんですか？

委員 そう、昨年は1期生が40歳を迎える年だったからね。

ナビ 70人以上の同窓生が集まってだいたい感じだったようだね。

委員 いろんなことをするんですか？

ナビ おそらくほとんどの人が、卒業以来初の来校になると思いますので、まずは校内をゆっくり歩いて回りたいと思います。あと、当時の先生方とは話せる機会をつくりたいですね。なんか「気軽に散歩しにきてください」って感じですか？

委員 そうですね、準備などの面倒なことはすべて実行委員にまかせてくれてオツケーです。そのかわり、ひとりでも多くの2期生に参加してもらいたい。ひとりでも多くなればその分有意義な集まりになっていけると考えています。

ナビ 何か参加された方のためになることってありますか？

委員 そうですね、

ナビ クラブ活動のO日会なんか

を作るきっかけになったりとか、名刺交換したら意外にビジネスに発展するかもしれない。でも、何よりもせんげん台の駅をおりて当時より空が狭くなった道を学校まで歩き、そう、パスもいいんですができれば歩いたほうがいい、そして妙な違和感とともに校門をくぐるだけでも参加する価値はあると思います。当日は文化祭もやっていますし。

ナビ 参加した人が、それぞれに自分の有意義を感じられる集まりなんですね。なんか興味があるんだけど…

委員 今回は、2期生のためだけのイベントなんですけど…

ナビ そうだ、校内散歩のとき案内ナビでもやってもらおうかな。

委員 やったあ！ たのしみ！

ナビ 2期生の皆さん、9月25日(日)に待ってまーす。



▲修学旅行 2年2組 於 倉敷アイビースクエア

世界に羽ばた 金の卵を育てし



小平 マレーシアで何をしていますか。
 村松 マレーシアに在住する日本人のお子さんを対象とした無限学園という学習塾の講師をしています。
 小平 へえ、日本人が通っているの？
 村松 生徒たちは主に父親の仕事の関係でこちらに滞在している小中学生です。大半は3年から5年で日本に帰国します。それでも中には両親のどちらかが外国人であったりして、海外で生まれ育つたため、ほとんど日本を知らない子もいますね。
 小平 ふーん、学年だとかのくらい？
 村松 小学2年生から中学3年生ですね。
 小平 ということは、進学指導だけではないね。
 村松 そうですね、学習指導と進学指導のどちらも行います。小学生で英検2級を取得する生徒もいますから。
 小平 英語はそこそこできるんだ。日本語は？
 村松 日本語力の弱い生徒もいますね。だからハイレベルな英語指導と、個々に合わせたきめ細かな英語指導が必要になります。
 小平 ムラオ(彼女の在学時のあだ名)は何、教えているの？
 村松 私は主に英語と国語の授業を担当しています。初めは日本での講師経験とのギャップを感じることもありました。今はここでのことが大変よい勉強となり、強いやりがいを感じています。
 小平 基本的な質問に戻らせてください。そもそもこの無限学園はどうやって知ったの？
 村松 インターネットです。
 小平 でも海外で仕事をするのって、手続き面などが大変じゃない？
 村松 国によって方式はだいぶ異なると思いますが、まず共通に必要なのは就労ビザの取得ですね。私の場合、会社がすべて準備してくれました。なので、ごめんなさい、実は何が必要書類なのか、よく分かっていないのです。ただ会社によっては、採用条件に「既に就労ビザを持っていること」を挙げているところもあるのです。確認する必要がありますね。実際に向こうまで生活する上で、不安はなかったの？
 村松 ほとんどありませんでした！
 小平 度胸あるなあ。
 村松 ちょっと無防備すぎるのでしょうか、出発までに



14期生
村松 和子

2000年3月 経済学部 経済学専攻 卒業
 2000年4月 明光義塾 塾長 兼任
 2001年4月 クレスタック 入社
 (広告会社の編集業務)
 2002年3月 退社
 2002年9月 無限学園 (マレーシア校) 入社
 現在に至る

長や、講師の方々から何度も電話をいただき、無学年園のみなさんにお会いするのを楽しみにしていましたから。新しい土壌、新しい職場、新しい出会い。考えるだけで嬉しくなりました。
 小平 周りには？
 村松 周りは大いに心配してましたね。両親はまだまだ帰ってこいとうるさいです。当の本人はのんきなもので、準備やら、友達への連絡やらをすませて、出かけてしまったのです。
 小平 そちらに行っていましたか？
 村松 こちらに着いてからしばらくは、右も左も分りませんでしたので、たいていのことは、社員の方にお手伝い頂きました。部屋探し、家具など、生活するうえで必要なものを1ヶ月の間に一通り揃えました。車は会社名義で1台自分専用に使いました。ローンは、月々お給料から天引きされています。
 小平 実際にそちらの生徒はどうですか？
 村松 海外生活を経験しているこちらのお子さんは、世界を身近に感じられる分、今後ますます国際化していく日本にとって、先頭に立って活躍することのできる貴重な人材で、金の卵だと思っています。そういう中で、取り組もうとしていることはありますか？
 村松 今日でも盛んに研究され始めていると思うのですが、小学生の初期段階、つまり導入期の英語学習のあり方について、体系的なカリキュラムを確立すべく、私が責任者となって動いています。
 小平 帰国する生徒のケアはどうなっていますか？
 村松 進路指導面では、4割ほどが首都圏に帰国しますが、他は全国各地に帰国地域が広がっているため、受験情報の収集と、状況に合わせた的確な進路指導を行わなければならない点、日本とは大きな違いで、大変なところですね。しかし、埼玉県を中心とする首都圏の進学状況が知らなかった私にとっては、全国のいろいろな地域の教育行政や特色のある私立学校のことを知ることができ、子ども達の進路選択及び、学校教育のあり方について学ぶところが大きいので、目を圓かされる思いですね。そういえばムラオの教え子が、別園にも来ましたね。元気にやっていますよ。
 村松 それは安心しました。
 小平 近いうちにムラオの教育を受けた子たちが、世界中で活躍する日が来ることを期待しています。体に気をつけて、マレーシアの地でがんばってください。今日はどうもありがとうございました。

「部活動紹介」



ソフトテニス部は、私たち23期生の引退とともに歴史に幕を閉じることとなりました。今考えてみると、私だけでなく先輩の方々の頭にも一番に浮かんでくるのは、やはり三国先生の姿ではないでしょうか。練習中の厳しい目や、職員室で怒られた事、試合中大声を出さんばかりにアドバイスを下さる姿。今も昔も変わらない三国先生のご指導を、誰もが体験したと思います。いつ思いついても、辛かったことはかり目に浮びますが、引退した後ようやくこの厳しさの中に先生の大きな優しさを見つきました。辛さを乗り越えることで心身ともに成長し、また友達との絆がいっそう深まったことなど、部活での経験の多くは今の自分にとっていい肥やしとなっています。
 そして、三国先生のご指導といえは、やはり先輩や先生に対する礼儀や気配りではなかったでしょうか。これは、社会に出て必ず必要となるものだと思います。練習の準備や片付けはもちろん、練習中の小さな気配りの積み重ねが、今の自分の大学生活の中でも大きく役立っています。これはこれから社会に出て行った後も、大きな財産となるでしょう。
 さて、ソフトテニス部が廃部になると決まったとき、私は一年生でした。そのときはただ後輩ができないんだ...など漠然と考えて



いるだけでした。しかし、先輩方が引退し、先生や先輩の目が自分たちに向けられたとき、初めて自分たち6人の責任の重大さに気づきました。また、同時に先輩方のソフトテニス部に対する強い気持ちにも気づかされました。このことは、今年の2月に初めて開かれたOG会の中で久しぶりに会った仲間と、卒業して数年、または十数年たっていても、楽しそうに現役時代の話をしている姿からも、見ることができました。いつまでも仲良くいられる友達ができるのもソフトテニス部のいい伝統だと思います。また、同じような経験をし、気持ちをお互いに理解して下さる先輩とのつながりも、大切なものです。
 最後に、今はなくなってしまうソフトテニス部が存在していたことを忘れず、ここで得たたくさんの方々の宝物を持ちつづけていきたいです。そして、その伝統は現在三国先生が顧問をしていらっしゃる硬式テニス部に受けつがれていくことでしょう。いつまでも、「ファイト」という生徒達の声と先生の元気な声コートにあふれてほしいです。
 (23期生 森 歩美)

第7回 教員座談会

今回は、体育館部活を担当されたことのある先生方に、第一体育館での思い出話をお聞きしました。

バスケットボール部

平成17年5月、待ちに待った第二体育館が完成しました。第一体育館と出合っただけで早くも24年目の5月です。夏暖かく、冬寒いというスポーツをする身にとっては実に修業場のような場所です。それでも長くつき合っていると、これはこれで愛しいものです。ただ床が木でないため他校に練習ゲームのお誘いをすると必ず「うちの体育館でやりましょう」とよく言われたものです。また私の膝も、もう耐久年数を越えたこの床が木だったらあと5年くらいはバスケが楽しめるのだと思うこのごろです。新しい体育館は明るく広くとても快適です。獨逸もこの25年でもまた一つ大きく変わりました。ぜひ足を運んでみて下さい。白髪まじりの先生方が以前と変わらぬ笑顔でお待ちしています。(堀内 和子)

男子バドミントン部

細く長くを目標にがんばって来た男子バドミントン部でしたが、一昨年の春の大会を最後に休部となつてしまいました。時に活動休止期間もありましたが、二十年近くの間一度も途絶えることなく続いていた、伝統の部活だったので、休部にしてくれないかと言われた時は辛い思いでいっぱいでした。バドミントンの男子は、基本的にまじめな生徒が多かったのですが、個性的で濃いキャラの生徒が多く存在しました。合宿に行った時、練習をサボって地元の小学校のプールで泳いで大目玉を食らった部員、個人戦でようやくの思いで県大会に出場したのに、その審判に行きたくないと言った部員など……。個人は全体のために、というよりも、個人は個人のために、という傾向が強かった気がします。こうした個性的なキャラクターをまともな上げてくれた、歴代の部長には大いに感謝しています。でも今考えるとバドミントンの男子は個性的でありながら、彼らなりのまとまりがあったのだと思います。ここが自分たちの居場所なんだ、という思いで部活を続けていたんだ、今になって感じてくれています。いろいろ思い出をありがとうございます。(村岡 健二)

女子バドミントン部

女子バドミントン部は第一体育館で20年余り活動してきました。この体育館は冬の寒さより夏の暑さのほうが印象に残っています。練習を始める前に、すべての窓を開け放つても、あまり風は通らず、天井にある大きなライトの熱も加わって、うだるような暑さの中で練習しました。天井は、他校の体育館などと比べて低かったように、シングルのサーブを高く打ち上げたときに、よく天井にシャトルがぶつかりました。おかげで

めったに使われない「レット」というバドミントン用語を覚えた部員もたくさんいます。

床が固かったのもバドミントンにはつらいことでした。バドミントンは、すべての動きを右足で一脚のうちに止める動作が多いので、右ひざが痛まないか常に心配でした。幸いにも、大きな故障も怪我也なく今日まで来ることができました。

問題はありましたが、この体育館で様々な生徒と練習できたことは有難いことです。バドミントンは気軽に始められるスポーツなので、運動が得意ではない生徒や初心者も比較的多かったのですが、経験者も初心者も、強い人も強くない人も、先輩も後輩も、何の分け隔てもなく、それぞれの個性を發揮しながら楽しい部活動を行っていたと思います。緑色のフロア、一言に基礎打ちを始めた時の、体育館中に響き渡るパチッ、パチッという水鳥シャトルを打つ音、審判や観客も含めて手際よく役割分担をして行うダブルス練習、そして休憩時間にドアの外に出て、汗を拭きつつ、いろいろなことを喋りながら見た、目の前に広がる緑の田んぼ。こうしたことが第一体育館でのクラブ活動で、すぐ目に浮かぶ光景です。(百合 寿紀)

男子バレーボール部

私は56年4月に獨協埼玉高校に赴任した。その前年度に獨玉V.S自白の練習試合が企画されて、自白の部員を引率して訪れたのが、第一体育館との出会いである。「非常に狭いボールは見ややすく感覚がつかみやすい。己のスパイクの威力が増した感じがする」という印象を受けた。当時の獨玉は県大会2位のエースであったK君をはじめ、中学時代に活躍した猛者どもが集まっていた。レベルが高かった。二年目の部員も全国大会を経験しているY君をはじめ、全員経験者揃いであり、「選手を集めているのか」と他校の顧問から尋ねられるほど選手層が厚かったが、「中学の貯金だけで公式戦を戦っている」と言われ、悔しいので、練習量を増やした。すると途端に故障者がでて、二期生の部長Y君はとうとう剥離骨折をしてしまい1カ月以上入院した。

共学になったと同時に体育館の部活も増えたので、使用回数も制約を受けるようになり、故障者は減少したが、上達もしないという時代に突入する。赤ジャージの学年は入部部員数も多く、紺ジャージは有能な部員、水色ジャージはおとなし目の部員が入部する。といった不思議な3年サイクルができ、更に隣で練習している男子バスケ部が活躍する年は我がバレー部は低迷というシクネスまで形成された。新入部員は初心者が多く、週2回半の練習量では足りない。他校との練習試合を多くしていったことで徐々に一定レベルを維持できるようになった。と同時に、「フラインクすると手首が痛む。着地の時

膝や腰が痛む」という部員が増加した。スパイクの練習時間を短くするなど、部員の体に気を遣いながらの練習であった。垂直跳び85cmはある11期のO君などはバケツに水を入れて足を冷やすなど管理に苦勞していた。

13・14期生が活躍し東部地区2位となり、創部14年目にして初の県大会出場を勝ち取る事が出来た。16期の部員は部長のA君を中心に良くとまってきた。自主的に練習し、私学関東大会に出場できた。昨年は初の県大会一勝をあげることも出来た。近年は年に1度県大会に出るだけだが、「先輩たちに続け」を合い言葉に普段の日には週3日練習して練習に励んでいる。選手を集めてはいないのでレベルを維持し続けるのは難しい。初心者が多いので勝つゲーム展開までに時間がかかる。しかし、部員たちは素直であり熱心に練習している。第一体育館の床は選手に故障をきたし、狭さはサーブレシーブに、天井の低さはスパイク及び公式戦での空間把握にマイナス、風通しも悪い。この劣悪環境の中で部員たちは頑張ってきたのである。

この度、念願の広さと高さの木製のフロアである第二体育館ができ、思っ存分活動できる環境が整った。後は部員確保である。(須藤 憲規)

女子バレーボール部

7名のメンバーでスタートしたのが創立3年目、女子の生徒が入学した年でした。体育館に入ったイメージはフロアが緑色で、当時の東京体育館と同じであり……。ただ少し違っていたのは、強打をレシーブするとボールが天井についてしまったりするなど高さがなく、そして暖房設備のある体育館は初めてでした。初代部長の吉岡さんを中心に男子のボールを借りて練習、人数が少ないため何をやるにもボール拾いが大変でした。記念すべき最初の試合、対戦相手は第一シードの草加高校。15-0、15-1の完勝でした。

埼玉県私学大会にも1年目から出場、3日間かけて行われ、初日の予選リーグで勝ち残らないと2日目以降の決勝リーグに進めませんから負けようとして1日目で終わってしまいました。それが数年間続きましたが、初日敗退してしまおうと次の日はマラソン大会という年、予選リーグを4勝1敗で勝ち残り、初めに2日目の決勝リーグに進むことが出来ました。公式戦では1回戦、2回戦は勝つことが出来ても、なかなか県大会に出場することは出来ませんでした。が、念願の県大会に出場することができたのは部長が浜田さんのときでした。次の年の県大会も1回戦で敗れ県大会での勝利は経験していません。賞状は私学大会日ブロック優勝と越谷大会3位だけで、高体連のマークの入った賞状はありません。合宿での思い出は多すぎて書きません。部員一人一人の心の中にいろいろな形で残っていると思います。文化祭では食品団体として積極的に参加してきました。その利益の中からユニフォームも作り出しました。初代は紺地に白字、2代目は赤地に白字、3代目は初代と同じ4代目は白地に赤字、5代目は白地に紺字6代目と7代目は現在使用しているユニフォームです。文化祭での一番の出来事は甘味所で参加した年、50円で仕入れたタンゴを50円で販売して、売れば売れば消費税分が赤字になって行くことに気が付かなかった。こんなことが2年もありました。いろいろありましたが、仲の良いメンバーは今でもずっとつながっているようです。残念なのは、大学にいったバレーを続けているという話がありません。こえてこないことです。(国府田道雄)

卓球部

私は本校に赴任していきなり第6期生の担任を持ち、部活動は卓球部顧問を命じられました。それまで卓球はまったくといってよいほど経験はなく、温泉のピンポンさえやったことにはなかった。不安いっぱいなのスタートだったことはいまでも思い出です。幸いなことに正顧問の高島先生は経験豊富な指導者で、この時点を部員は技術指導を受けることが出来た。それはなかつた。それから逆にならば、技術指導を受ける始末で、彼ら彼女らには必ずいふんと迷惑をかけてしまった。この場を借りて往年の卓球部諸君に対し改めてお礼を申し上げます。その後すぐに正顧問になりましたものの素人顧問であることには変わりなく、技術指導などはほとんどしてあげられなかったが、それでも男女ともにそれなりの成績をあげてくれた。ひとえに本人たちの努力の賜物です。高1の時から東部地区では無敵の男子シングルス優勝を続けた小林君。彼は初心者の部員を横気強く育ててダブルスで県大会にまで勝ち上がった実績を持つ優れた指導者でもありました。彼の在籍中は、顧問会でもずいぶんと鼻の高い思いもさせてもらいました。後輩も彼のおかげでずいぶんと膝を聞きそれなりの実績を残してくれました。女子は6期生は経験者が4人も入部してくれて、なんと団体戦で県大会まで勝ち進みチームワークを発揮してくれ、彼女らは母親となった今でも年一度は自宅へ遊びに来てくれて当時の思い出話を話させてくれていています。彼女らのおかげで男子同様県大会にまで駒を進めてくれる優れた後輩が育って来たことは、本当に顧問冥利に尽きる黄金時代でありました。本

当時卓球部の活動場所の中心は体育館フロアではなく、男子はその上のギャラリー、女子はステイジでした。ギャラリーは網を張って、ステイジは夏でも縦横を閉じて、ともにボールがフロアに飛び散るのを防止する工夫をしての練習を余儀なくされたのです。それでもギャラリーからフロアへ落ちるボールを拾ってもらうために「すいませーん! すいませーん!」の連続で、狭さと暑さの追い打ちを受けながら次々に仲間意識が強くなっていたように思っています。おかげで週1回許可されるフロアアでの練習は、逆に広すぎて面食らうほどでした。第一体育館ギャラリーは卒業した彼らにとっても私にとっても、忘れられない思い出を胸に刻んでくれた特別な価値を持つ場所として、広い第二体育館が完成後も、卓球部が廃部となつて久しい今も、揺るぎない存在感を保ち続けているのです。(柳町 道廣)

第26回 蛙鳴祭 9月24日(土)・25日(日)

今年のテーマは 獨玉40ちゃんねる

中・高あわせて40クラスある獨玉。テレビ番組のように40ちゃんねるさまざまな企画を気軽に見てまわってください。

40歳になったら学校へ行こう! -2期生ホームカミングデー-のお知らせ

昨年からはじめたホームカミングデーが、今年も開催されます!今年も2期生の出番です。278名の男子生徒が卒業し、21年の月日が流れました。人生の節目となるこの歳に母校をたずねてみませんか。以前と変わったもの、変わらないもの、新しくできたもの、古くなっているもの…。是非、自分の目とココロで確かめてみてください。学校でお待ちしております!

日時:9月25日(日) 14時 高校集合!(場所:中学棟1F 小ホール)

- ◆当日は… ☆校内でのミーティング ☆校外での懇親パーティを実施します。
 - ◆ご連絡… 懇親パーティに参加できる人数を把握するため、E-mailにてご連絡をお願いします。(8月中旬のご返答にご協力をお願いします。)
 - ◆連絡先… qqe57pk9@peace.ocn.ne.jp
 - ①氏名(できれば、3年時のクラスも) ②電話番号
 - ③学校から参加or懇親パーティから参加(懇親パーティからの参加も大歓迎)
 - ④その他、ホームカミングデーにやってみたいこと、要望など!
- また、参加できない方も近況報告などお聞かせください。
2期生に会いたい!という他学年の同窓生も大歓迎です。

実行委員 小泉英二(卒業時3組)・市橋秀紀(卒業時2組)

*なお、ホームカミングデーは獨協埼玉高校および同窓会の承認を得ており、継続事業として毎年開催していきます。皆様のご協力ご参加を心よりお願いいたします。

入 試説明会も開催中 場所: 中学棟小ホール

中学 9月24日(土) 10:00~11:00
13:00~14:00

高校 9月25日(日) 10:00~11:00

も もちろん、同窓会も参加します!

獨協埼玉の25年の歴史や、先生方の若かりし頃(!?)や現在が分かる“今昔物語”などを展示中!!
同窓生の皆様もご家族づれでお越し下さい。

同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業年)

理事

- ◆ 会長 玉山 栄一 (1)
- ◆ 副会長 永島 健次 (3)
- ◆ 会長 森岡 淳 (5)
- ◆ 計 櫻井 広仁 (13)
- ◆ 竹内 友洋 (13)
- ◆ 友野 行晴 (1)
- ◆ 酒井 直樹 (7)
- ◆ 会計監査 友野 行晴 (1)

事務局

- ◆ 事務局長 小平 茂 (5)
- ◆ 事務局総務 高田 晶子 (10)
- ◆ 幹事会進行 井上佐友子 (8)
- ◆ 幹事会記録 伊勢 陽子 (10)
- ◆ HP委員 仲田 英起 (17)
- ◆ 関 淳一郎 (16)
- ◆ 坂本 育美 (16)
- ◆ 山口 麻里 (20)

幹事

- ◆ 片桐 岳信 (1) 永井 穂 (16)
- ◆ 杉崎 良樹 (1) 深瀬 和之 (16)
- ◆ 市橋 秀紀 (2) 植原 浩美 (16)
- ◆ 水谷 功 (3) 梨本 佳世 (19)
- ◆ 吉本 博之 (3) 大山みどり (20)
- ◆ 武田 慎一 (3) 五十嵐 玄 (21)
- ◆ 桑島 優紀 (3) 池田ユリカ (21)
- ◆ 奥泉 裕子 (4) 丸川 玲子 (21)
- ◆ 橋本 行正 (4) 加藤 友紀 (22)
- ◆ 瀬戸てるみ (8) 高崎 翠月 (22)
- ◆ 川島 信也 (9) 村上まどか (22)
- ◆ 成瀬 博文 (10) 佐藤 唯 (22)
- ◆ 金久保佳代 (12) 安保佳代子 (23)
- ◆ 田中 弓子 (15) 岡部沙友里 (23)
- ◆ 田ノ下紀子 (18) 森 歩美 (23)

同窓会活動の更新について

同窓会名簿の更新につきましては、現在、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

同窓会連絡先

- ①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よくよくお願いします。
- ②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いいたします。
- ③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。
- ④同窓会は、同窓会活動を進行する上で取得させていただいた皆様個人情報を適切に保護し、会報、同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付、学校で保有する卒業生データベースの補完のための情報提供に、これらの情報を利用します。なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出ください。

会員登録のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。

※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておられません。